

羽黒神社の祭り 筑波山の色 勤行川の川面の輝き
すべて私が絵を描くのに必要なものだった

森田 茂

もりた しげる

100歳を迎える今も芸術への熱意は衰えることなく、ふるさと筑西を思い、キャンバスに向かい続ける筑西市名誉市民の洋画家・森田茂先生（文化勲章受章者）。しもだて美術館拡大常設展『百歳記念 森田茂展』（3月7日～4月2日）の開催にあわせて、森田先生の軌跡を紹介します。



- ▲『静物』大正15年（1926）
- ◀『壺と少年』昭和28年（1953）
第9回日展

明治40年（1907）

真壁郡下館町本城町（現・筑西市本城町）に生まれる。

「私の原点は、私を育ててくれた下館にあります。羽黒神社のお祭りのお囃子の音色、下館のまちなみ、筑波山の色、勤行川の川面の輝き。すべてが私が絵を描くのに必要なものだったのです」

大正14年（1925）

茨城県師範学校本科第2部（現・茨城大学）を卒業。真壁郡大田尋常高等小学校（現・筑西市立大田小学校）の教員となる。熱心に子どもたちにデッサンを教え、子どもたちから「デッサン先生」と慕われる。

大正15年（1926）

「純真な生徒諸君と過ごした3年間。幸福な私の出発点でした」

昭和3年（1928）

第3回白牙会展に『静物』が入選。大田尋常高等小学校を退職。画家を志し上京。

昭和6年（1931）

熊岡洋画研究所に入所。

昭和7年（1932）

飛騨高山に写生旅行。

昭和8年（1933）

第1回東光展に『白衣』が入選。

昭和9年（1934）

第2回東光展に『稽古』が入選、

『稽古』がK氏奨励賞受賞。第15回帝展に『神楽獅子の親子』が初入選。

昭和10年（1935）

第1回大東会絵画展に『飛騨祭』が入選。

昭和11年（1936）

文部省美術展覧会鑑査展に『飛騨広瀬の金蔵獅子』が入選。

昭和13年（1938）

東光会会員となる。第2回新文展で『金蔵獅子』が特選。

昭和21年（1946）

第2回日展に『阿波人形』が入選。

昭和31年（1956）

東光会委員（昭和55年初代理事



▲『装』昭和36年(1961)
第4回新日展

◀『下館みこし祭』昭和61年(1986)



▶『芸妓牡丹』昭和45年(1970)
第2回改組日展



◀『岩礁の松』平成12年(2000)

現在	平成15年(2003)	平成9年(1997)	平成4年(1992)	平成5年(1993)	平成63年(1988)	平成元年(1989)	平成3年(1991)	昭和61年(1986)	昭和56年(1981)	昭和52年(1977)	昭和51年(1976)	昭和47年(1972)	昭和45年(1970)	昭和41年(1966)	昭和37年(1962)
光会会長	日本芸術院会員・日展顧問・東	日本芸術院会員・日展顧問・東	日本芸術院会員・日展顧問・東	日本芸術院会員・日展顧問・東	日本芸術院会員・日展顧問・東	日本芸術院会員・日展顧問・東	日本芸術院会員・日展顧問・東	日本芸術院会員・日展顧問・東	日本芸術院会員・日展顧問・東	日本芸術院会員・日展顧問・東	日本芸術院会員・日展顧問・東	日本芸術院会員・日展顧問・東	日本芸術院会員・日展顧問・東	日本芸術院会員・日展顧問・東	日本芸術院会員・日展顧問・東
百歳記念	森田茂展	森田茂展	森田茂展	森田茂展	森田茂展	森田茂展	森田茂展	森田茂展	森田茂展	森田茂展	森田茂展	森田茂展	森田茂展	森田茂展	森田茂展